First Trust
Weekly OUTLOOK
Brian S. Wesbury – Chief Economist
Robert Stein, CFA – Dep. Chief Economist
Strider Elass – Senior Economist
Andrew Opdyke, CFA – Senior Economist
Bryce Gill – Economist
Nate Gerze, CFA – Economic Analyst
www.ftportfolios.jp • 2026 年 11 月 2 日

GDP と連銀に関する最新ニュース

さまざまな懸念が広がるなかでも、米国経済は成長を続けています。第 3 四半期の実質 GDP 成長率は年率 3.4%を記録し、堅調な個人消費と企業設備投資が成長を牽引しました。そのいずれにおいても、AI（人工知能）およびデータセンターの拡大が大きな原動力となっています。さらに、この経済成長の勢いは年末にかけても持続する見通しです。アトランタ連邦準備銀行の経済成長予測モデル「GDPNow」は、第 4 四半期の成長率について、当初予測を年率 3.2%としています。

こうした経済成長は、米国の労働市場が引き続き底堅さを維持している理由を説明する一因となっています。過去 4 週間の新規失業保険申請件数は週平均 19.7 万件となり、1969 年 10 月以来の低水準を記録しました。しかも、1969 年当時の労働力人口（就業者および求職者の合計）は現在の半分にも満たず、失業する可能性のある人々の絶対数もはるかに少なかったのです。

弊社の推計では、10 月の非農業部門雇用者数は 6.7 万人増加しました。これは過去 6 カ月間の平均増加数とほぼ同じ水準です。確かに、過去にはこれを上回る雇用増加が見られた時期もありました。しかし、移民の純流入がほぼゼロ、あるいはマイナスとなり、同時に国内人口の高齢化が進むという環境下で、これほどの雇用増加が実現した時期はありませんでした。

米連邦準備制度理事会（連銀、FRB）も先週、連邦公開市場委員会（FOMC）を開催し、短期金利を据え置くことを決定しました。これにより、追加の 0.25%ポイントの利上げは 12 月に先送りされました。先物市場では、12 月の利上げ確率を約 75%と織り込んでいますが、弊社は実際の利上げ確率はそれ以上に高いと考えています。

今回、より興味深いニュースとなったのは、ウォーシュ連銀議長が、2027～2028 年における金融政策決定会合のうち、利上げや利下げを積極的に審議する、いわゆる「ライブ会合」の回数を削減する方針を打ち出したことです。その代わり、一部の会合については金融政策の方向性に関する一般的な議論に充てることになります。弊社は、連銀の運営方法を近代化しようとする取り組み自体は評価しています。しかし、連銀が実施し得る広範かつ抜本的な改革と比較すると、今回の変更はいささか……迫力不足と言わざるを得ません。

もちろん、ウォーシュ議長がすでに大規模な改革を検討するための作業部会を設置していることは承知しています。

しかし、金融政策の重要な転換が必要になった場合、あらかじめ政策決定ではなく一般討議のために予定されていた会合だからという理由で、連銀が必要な政策変更を見送ると本気で考える人がいるでしょうか。

好意的に解釈すれば、ウォーシュ議長の狙いは、金融政策の変更をめぐる市場の過度な憶測や思惑を抑制することにあるのかもしれません。しかし、それを実現するには、金融政策を小刻みに、少しずつ変更するという従来の慣行から脱却する方が効果的ではないでしょうか。例えば、連銀は 9 月に政策金利を 0.25%ポイント引き上げるとともに、FOMC 参加者による政策金利見通しを示す「ドット・チャート」を通じて、年末までにさらに 0.25%ポイントの追加利上げを実施する可能性が高いことを示唆しました。それならば、なぜ 9 月の時点で一度に 0.5%ポイントの利上げを実施しなかったのでしょうか。さらに言えば、連銀自身が次の政策変更について、利上げと利下げのどちらが適切か判断がほぼ五分五分になる水準まで、政策金利を一度に調整することを基本方針としてはどうでしょうか。

一方、弊社は連銀が、銀行監督業務から経済調査活動に至るまで、各地区連邦準備銀行の運営に伴うコストの削減に、より一層注力すべきだと考えています。

最終的には、連銀において今後さらに多くの改革が実施される可能性が高いと見ています。ただし、それらの改革が本格化するには、パウエル前連銀議長が理事会を退任するのを待つ必要があるでしょう。パウエル氏の退任によって、現状維持にとらわれず、既存の制度や慣行を見直すことに、より積極的な人物を後任に任命できるようになるからです。

情報提供のみを目的としています。投資家向けではありません。ここに掲載されている情報は、投資活動への招待、申し出、勧誘、推奨を意味するものではありません。
コンセンサス予測はブルームバーグ社が提供するものです。このレポートは、First Trust Advisors L.P.によって作成されたものであり、著者の意見を反映したものです。正確且つ信頼できる情報源とデータに基づいたものです。意見および将来の見通しに関する記述は、予告なしに変更される場合があります。この情報は、証券の売買の勧誘または売り出しを目的とするものではありません。

発表日時 (米国中部時間)	米国経済指標	コンセンサス	ファースト トラスト予測	発表結果	前回
11-2 / 9:00 am	ISM 指数 - 10 月	54.5	**54.4**	55.5	54.5
9:00 am	建設支出 - 9 月	+0.3%	**+0.2%**	-1.9%	+0.9%
11-3 / 9:00 am	製造業受注 - 9 月	+1.2%	**+1.9%**		+0.1%
午後	乗用車・トラック総販売台数 - 10 月	15.8 百万	**15.6 百万**		16.0 百万
11-4 / 7:30 am	国際貿易収支 - 9 月	-$1,079 億	**-$1,078 億**		-$1,056 億
9:00 am	ISM 非製造業指数 - 10 月	54.8	**54.8**		54.9
11-5 / 7:30 am	新規失業保険申請件数 - 10 月	196,000	**195,000**		194,000
7:30 am	第 3 四半期 非農業部門労働生産性	+2.6%	**+2.4%**		+1.4%
7:30 am	第 3 四半期 単位労働コスト	+0.5%	**+0.3%**		+1.2%
11-6 / 7:30 am	非農業部門雇用者数 - 10 月	65,000	**67,000**		29,000
7:30 am	民間雇用者数 - 10 月	60,000	**62,000**		46,000
7:30 am	製造業雇用者数 - 10 月	5,000	**9,000**		9,000
7:30 am	時間当たり平均賃金 - 10 月	+0.3%	**+0.3%**		+0.1%
7:30 am	週平均労働時間 - 10 月	34.4	**34.4**		34.4
7:30 am	失業率 - 10 月	4.2%	**4.2%**		4.2%
2:00 pm	消費者信用残高 - 9 月	$130 億	**$165 億**		$83 億

情報提供のみを目的としています。投資家向けではありません。ここに掲載されている情報は、投資活動への招待、申し出、勧誘、推奨を意味するものではありません。
コンセンサス予測はブルームバーグ社が提供するものです。このレポートは、First Trust Advisors L.P.によって作成されたものであり、著者の意見を反映したものです。正確且つ信頼できる情報源とデータに基づいたものです。意見および将来の見通しに関する記述は、予告なしに変更される場合があります。この情報は、証券の売買の勧誘または売り出しを目的とするものではありません。